

## 令和7年度 第4回 柏市上下水道事業運営審議会

### 1 開催日時

2025年11月25日(火) 14時00分～16時30分

### 2 開催場所

柏市上下水道局庁舎 4階 401・402会議室  
柏市千代田1丁目2番32号

### 3 出席者

#### (1) 委員

落合委員(会長)、堀田委員(副会長)、谷委員、秋元委員、小貫委員、石井一宏委員、大藺委員、川端委員、中川委員、杢富委員、山崎委員

#### (2) 事務局

飯田上下水道事業管理者、小川理事、伊藤次長兼給排水課長、須藤総務課長、吉田経営企画課長、佐藤料金課長、岩堀水道工務課長、新井下水道工務課長、深山施設管理課長 他

### 4 議題

(1) 柏市上下水道事業ビジョン 事業計画と財政見通し

### 5 報告事項

なし

### 6 議事

**議題 柏市上下水道事業ビジョン 事業計画と財政見通し**

質疑(川端委員)、回答(事務局) 経営企画課

Q. 法定耐用年数超過設備率の目標について、R6実績と5年後・10年後目標に違いがないのはなぜか。

A. 主に電気設備の更新を適宜行っていく予定であり、設備の修繕も合わせて行いながら、指標が悪化しないように努めることを示すものである。

質疑（石井一宏委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 指標の良い方向について、実績および目標の指標が0であるのに、下向きなのはなぜか。

A. 指標として低い方が望ましいということを示している。数値が0であればそれ以上は下がらないものであるため、指標の見方という名前に変えてもいいかもしれない。

質疑（堀田副会長）、回答（事務局）水道工務課

Q. 管路の事故割合には、非鉄製管路の事故割合が含まれていないように見えるが含まれているのか。

A. 管路の事故割合は、柏市の水道管路全体の延長を分母にし、全管路の事故件数を対象にしている。非鉄製管路の事故割合は、そのうち非鉄製管路延長を分母にし、非鉄製管路の事故件数から算出したものである。

質疑（堀田副会長）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 下水道の老朽化対策について、道路陥没箇所数や詰まり発生件数の目標を前回審議会より厳しいものに修正しているが、目標を達成するための根拠はあるのか。管路調査実施延長の数値が前回より減っているのはなぜか。管路更新延長は前回より変わっていないが、それで道路陥没箇所数や詰まり発生件数の、より厳しい目標を達成できるか。

A. 前は管路包括委託実施前も含む10年間平均の数値を目標としていた。今回は管路包括委託を実施している期間の、5年間平均値にしている。目標の設定方法を変えたものであり、業務をさらに厳しく行っていくという趣旨で目標を修正したわけではない。管路調査実施延長については、算出方法に変更があり修正したものである。陥没の主な要因は取付管に帰することが多い。そのため管路包括委託の第1・2期では、下水道本管のみを調査対象にしていたが、ウォーターPPPでは取付管も調査対象に含むこととした。取付管を調査対象にしたことで、道路陥没や詰まりの発生件数について、目標設定を高めたことに対し対応できると考えている。

意見（中川委員）

篠籠田貯留場・柏ビレジ排水ポンプ場の指標が分かりやすくなってよかった。

質疑（堀田副会長）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 篠籠田貯留場・柏ビレジ排水ポンプ場の工程割合はどのように設定したのか。

A. 各ステップごとの所要期間と事業費を出し、それぞれの全体に占める割合を合成の上で重み付けした。

#### 質疑（大藺委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 人口増加を見込む根拠は何か。

A. 柏市第六次総合計画の人口推計において、令和 17 年度まで柏市内の人口が増加すると予測されていることによるものである。

Q. 市民の実感として周囲に高齢者が多く、人口が増加するようには思わないが、本当に増加するのか。

A. 人口が増加している地域はマンションや住宅地が新規に建設されている地域である。人口の増減は、市内における地域差が大きい状況となっており、市全体としては緩やかに増加する予測となっている。

Q. これまでの審議会の内容から料金改定の必要はないイメージを持っていたが、今後の収支見通しとして赤字が示され、料金改定の可能性があるように感じた。それに加え、今柏市で大きな災害があった場合に上下水道事業として耐えうるのか。

A. 水道事業のこれまでの決算において料金回収率が 100%を超えている説明をしたことにより、料金改定の必要がないと思われたように感じる。全国的にインフラの老朽化が進んでおり、柏市も人口が急増した時期に急速に整備された施設が多くあり、現在それらの施設の更新が必要となっている。その中で優先順位を定めて必要な事業を選定し、財政見通しを立てた。上下水道局としては、人口増加する令和 17 年度までの間に必要な整備を着実に進めていきたいと考えている。この期間に実施できない事業は DX などの新技術を活用し、更新の必要性を再度検討しながら事業を行っていく。

#### 意見（谷委員）

今後料金改定が必要と思われる財政見通しとなったが、前回の水道料金の値上げが平成 11 年であったことを併記すると、市民の理解も得られるのではないと思う。

#### 意見（事務局）経営企画課

料金改定はネガティブな話題であることから、ビジョン本編も含めて市民の方々の理解を得られるように丁寧に説明を行っていきたい。

#### 質疑（川端委員）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 下水道事業において、大規模工事の複数年契約を考えているか。

A. ウォーター PPP は 10 年間の契約とする予定であり、個別に契約するよりも費用を抑えられる。その他の官民連携の事業でも、そのようなスケールメリットを生か

す契約方法を含めて検討する。

Q. ウォーターPPP 以外でも考えているという理解でよいか。

A. ウォーターPPP 以外でも、実施可能なものについては検討し、事業費の圧縮を図っていく。

質疑（石井一宏委員）、回答（事務局）水道工務課

Q. 水道事業ではウォーターPPP で耐震化も実施するのか。下水道事業では実施しないものと認識している。

A. ウォーターPPP において、水道事業では基幹管路をメインに更新を行っていく。更新は古い管を耐震管に入れ替えるので、必然的に耐震化が進むものとなっている。

質疑（石井一宏委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 下水道の流域維持管理負担金について、すでに決まっている値上げは見込んでいるか。

A. 現在予定されている令和 11 年度までの値上げは見込んでいる。その先は不確定のため見込んでいない。

質疑（落合会長）、回答（事務局）経営企画課

Q. 水道の受水費についてはどうか。

A. 令和 9 年度まで現在の単価であることが分かっているが、それ以降は未定であるため見込んでいない。

質疑（堀田副会長）、回答（事務局）経営企画課

Q. 前回の水道ビジョンでは、内部留保資金が 30 億円を下回るのは令和 40 年頃以降の予定であった。前回の財政見通しを立てた時と比べて状況が変わっていることは理解しているが、このような大幅な変更となったのはなぜか。資本的支出も前回と比べて非常に多いが、これはなぜか。

A. まず前回は物価上昇を見込んでいなかったが、今回は物価上昇を見込んでおり、毎年上昇率を乗じていることから年数が経過するほどその影響が大きい。加えて、ビジョンの更新と同時に水道事業の管路更新計画及び水源地更新計画を見直している。前回まで更新を見込んでいなかった管路・施設についても更新が必要であり、その費用を見込んだために事業費が増加している。前回から大きな変更となった理由は説明が必要であると考えている。借入金を見込むか否かも結果に影響している。事業の考え方として、見込まれる収入に合わせて事業を行うものと、費用に

かわらず必要な事業を実施するものと2通りあり、前者のような状況であるのではないかと危惧されていると理解したがいかがか。

Q. ビジョンの中で必要事業を整理した後に財政見通しを立てるのが基本的な考え方だと思っているが、そのようになっているのか。収入から必要な事業を逆算しているとしたら実施する事業がかなり限られてしまうように思うが、事業量と財政の関係性はどのようになっているのか。

A. 本日お示しした財政見通しは、最低限実施しなければならない、延期することができない事業を積み上げて作成した。したがってこれらの事業は、料金改定が必要になったとしても行わなければならない事業として考えている。収入に合わせて事業量を調整する方法も考えられるが、今回はインフラを維持するために収入も見直して事業を継続させていくという考え方のもと、財政見通しを作成した。

#### 質疑（落合会長）経営企画課

Q. 以前と比べて考え方が変わっているのかを確認したいという質疑であると思うが、いかがか。この財政見通しは事業計画を基に立てているものと思う。赤字にならないように事業を進める方法もあるのではないか。

A. 赤字にならないよう事業を進める方法もあるが、それでは必要な事業を行うことができず、我々が目指している事業目標を達成できない。過去20年以上大幅な値上げをしていないことも踏まえて、料金改定によって収入を増やして必要な事業を行っていく必要があると思う。今回の意見も踏まえながら必要な事業について説明を行っていききたい。

#### 意見（堀田副会長）

必要な事業を諦めてでも料金改定すべきでないと考えているわけではない。収支見通しはビジョンの一部である。通常は料金改定等が必要であれば、財務的な健全性を確保するような方策もビジョンに含めて、事業と収支の見通しが計画として成立することが求められると思う。

#### 質疑（川端委員）回答（事務局）下水道工務課

Q. 過去に立てた中長期計画の改修等の実績はどのようになっているのか。

A. 今年度の第1回に説明したものである。計画通り順調に進んでいるものもあれば、遅れ気味のものもある。水道の老朽管の更新は、ビニル管等を優先させた結果、基幹管路の更新が遅れ気味である。それを踏まえて、ウォーターPPPにより今後重点的に進めていく。下水も同様の状況で、篠籠田貯留場の整備は、計画では着手している予定であったが、今後実施するということで、順調に進んでいるものと遅れているものがある。

質疑（山崎委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 浸水対策について、前期・後期とも雨水管の予定整備延長は同じであるのに対して、予定する整備費用が異なるのはなぜか。

A. 前期の中には、実際に浸水被害が生じている、柏駅西口周辺及び篠籠田地区の浸水軽減を目的とした貯留施設の整備を予定している。これに約 40 億円の費用を要しており、前期に見込んでいることから費用の差が出ている。現在の財政状況を踏まえてこれを実施すべきかどうかは検討の余地がある。これは貯留施設の整備であるため、雨水管の整備延長には含まれない事業である。また、北部中央地区の区画整備事業の費用も前期に含まれており、これも延長には含まれないが浸水対策費用の増加につながっている。

質疑（落合会長）、回答（事務局）下水道工務課・経営企画課

Q. 浸水対策については、補助金で賄う予定であるか。

A. 浸水対策は公費で賄われるものである。

Q. その収入は見込んでいるか。

A. その通りである。

意見（落合会長）

必要な事業を実施するために値上げが必要となるというのは理解できるが、前回と比べて料金改定の必要な時期が相当早くなったことは説明の必要があると思う。

質疑（谷委員）、回答（事務局）下水道工務課

Q. 下水道事業の管路更新延長の指標について、前期・後期目標は数値で表されているにもかかわらず、最終目標が数値となっていない。ほかにもそのような指標があり、曖昧なように思う。

A. 下水道事業の管路更新延長の目標について、下水道の老朽化対策は、管路調査を行い、その結果を踏まえて劣化度、緊急度の高い管路から更新を行っている。調査の結果によって必要延長は変わるものであり、何 km 行ったから終わりというものではないため、このような表現になっている。

意見（落合会長）

数値化できないというのは理解できるが、分かりにくいと思う。DX 導入数についても、最終目標の、効率的な活用というのは当たり前のことであるので、何か他の方法はないのかと思う。

質疑（中川委員）、回答（事務局）経営企画課

Q. 人口増加の予測について、水需要の減少等過去に危惧していたことの検討がおろそかになっているのではないか。地域差によって整備状況が異なるのに同じ料金を徴収されることに不満が出ていることも過去に示されていたため、料金改定についても市民が理解できるような説明が欲しい。

A. 過去に公表した財政見通しと今回の財政見通しの乖離があるため、変更点や結果が変わった理由を本編で丁寧に説明し、ご理解いただけるようにしたい。値上げが必要であるという結果は変わらない見込みであるが、その部分について納得できるような資料作りを検討していきたい。

**7 傍聴**

傍聴者なし